

第40回（令和6年度）
石川町少年の主張大会
—今、私たちが伝えたいこと！—
作品集



主催 石川町青少年健全育成推進協議会

後援 福島民報社/福島民友新聞社/町民ニュース社/夕刊いしかわ新聞社

《第40回石川町少年の主張大会作品 もくじ》

・『伝統を受け継ぐこと』					
石川小学校	6年	こいけ	さくや	小池 朔矢	1
・『水郡線を不滅の路線にするために』					
石川小学校	6年	たなか	こう	田中 滉	3
・『音楽の楽しさ』					
石川小学校	6年	ほづみ	そあら	穂積 蒼來	5
・『猫の世界』					
野木沢小学校	6年	みずの	ゆい	水野 優結	7
・『制服の選択と権利』					
石川中学校	3年	いぬい	そういちろう	乾 蒼一郎	9
・『人権への主観』					
石川中学校	3年	さいとう	ゆうき	齋藤 優希	11
・『無農薬・オーガニック野菜を食べよう!』					
石川義塾中学校	3年	ねもと		根本あかり	13
・『持続可能な地域の実現』					
学校法人石川高等学校	3年	ふじもと	こう	藤元 昂	15
・『私にとって大切なこと』					
福島県立石川高等学校	3年	ひるた	あきら	蛭田 暁	17

《少年の主張大会の趣旨》

少子高齢化、国際化、情報化が急速に進み、環境が目まぐるしく変化する現代社会において、次世代を担う子どもたちには、心身ともに健康で他者を思いやる心を持ち、社会的に自立していける、健やかな成長が求められています。

そのためには、広い視野と柔軟な発想や創造性などと共に、物事を論理的に考える力や、自らの主張を正しく伝えて理解してもらう力などを身に付けることが大切です。

少年の主張大会は、青少年にとってこれらの契機となることを期待するとともに、青少年の健全育成に対する町民の理解と関心を深めていただくことを目的として実施しました。

《講 評》 石川町社会教育委員長 三森 孝則

『 伝統を受け継ぐこと 』

石川小学校 6年 ^{こいけ}小池 ^{さくや}朔矢

「六年生らしく、最高学年として、責任をもって、石川小学校の伝統を受け継ぎ、力を合わせて、明るくおもしろいクラス、みんなで楽しく卒業しよう。」

これは、ぼくたち六年一組の学級目標です。

今、ぼくは、「石川小学校の伝統を受け継ぎ。」という言葉が一番大切にしたいと思っています。石川小学校は、今年度で十周年を迎えました。

ぼくは小学校を卒業するまでに頑張りたいことがあります。それは「石川小学校の鼓笛」です。ぼくにとって、鼓笛はとても特別な思いがありました。

昨年十二月に、鼓笛のオーディションがありました。ぼくが希望したのはクオードという楽器でした。鼓笛隊の中で大太鼓やシンバルと同じように、一人で演奏しなければならない楽器です。何人希望するかも分からない中で、どうしてもこの楽器にこだわった理由がありました。それは、六歳年上の兄がこの楽器を演奏していたからです。兄の演奏している姿が、とてもカッコよくて、輝いていたことを今でもはっきりと覚えています。「兄のようにクオードを演奏したい。」という強い思いが、ぼくにはありました。だから迷わずクオードを希望しました。

そして、オーディションの日がきました。「絶対に合格したい。」と、強い思いでオーディションを受け合格することができました。ぼくはとてもうれしく思ったと同時に、兄のように頑張ろうと、決意を新たにしました。

次の日から、早速練習が始まりました。クオードを初めて肩にかけたときの感触はいまでも忘れることができません。ぼくは、「うわ、こんなに重いんだ。」とつぶやいてしまいました。これだけ重い楽器を肩にかけて演奏していたのだと思うと、「これまでの六年生やお兄ちゃんは、やっぱりすごいな。」と、改めて思いました。

一つ上の先輩が、「このときは、このように演奏するんだよ。」と、優しくていねいに教えてくださいました。ぼくは、お兄ちゃんや教えてくれる先輩のように、カッコよく演奏したいと思い、毎日時間を見つけて、自主的に練習をしました。毎日練習を繰り返していく中で、「全ての曲を演奏して、隊形移動まで完成させることは、本当に大変なことなんだな。」と、改めて、石川小学校の鼓笛隊の伝統の重みを感じました。

楽器の重さ以上に、石川小学校の鼓笛隊を繋いできた先輩方の思いが伝わってきました。

そして、五月十八日、小学校最後の運動会の日がやってきました。ぼくたちは、たくさん練習を積み重ねてきました。最初で最後の運動会の演奏は、これまでの中で最高の演奏でした。演奏後に、担任の先生から言っていただいた、「今までで一番よかったよ。」という言葉は忘れることができません。

ぼくは、石川小学校の伝統を守り、ぼくたちの新曲を披露することができたことの喜びや達成感を感じました。

ぼくは、今の五年生に石川小学校の鼓笛の伝統をしっかりと引き継いで卒業したいと思います。

(講評)

「石川小学校の伝統を受け継ぎ」という言葉を大切にしている朔矢さんが、鼓笛隊の中でクオードという楽器に挑戦し、努力していた様子が、わかりやすく述べられています。先生方や、やさしい先輩の指導、内容を聴いていると、石川小鼓笛隊の素晴らしい伝統がよく守られていると感じました。本番の運動会での演奏が一番よくできたことは、先輩の指導や、朔矢君の努力があったからこそだと思います。

朔矢さんも最上級生となり、かつては先輩が教えてくれたことを、今度は自分が後輩に指導する立場です。小学校全員の仲間と一致団結して、この伝統を守ってってください。

『 水郡線を不滅の路線にするために 』

石川小学校 6年 田中 滉^{たなか こう}

みなさんは、水郡線をご存知だと思いますが、一年間にどれだけ利用されているでしょうか。あまり利用しない、という方も多いと思います。しかし、利用する人が減ってしまうと、お金が入らなくなり、路線が無くなる可能性もあります。

実際に安積永盛駅から磐城塙駅間では、10億400万円という赤字額が出ており、他にも百円をかせぐために5,776円も必要になっている赤字を示すデータも出ています。中には、「このあたりの地域は車社会なんだから水郡線は無くてもいいんじゃないか。」と思う人ももいると思います。確かに、地元に住んでいる私自身も使う機会があまり無く、移動も車で間に合っています。ですが高校生たちはどうでしょうか。

石川町には学校法人石川高校や県立石川高校、さらには郡山市内の高校に通う学生が多くいます。そのような人たちには、水郡線の利用は必要不可欠であり、通学するのも難しくなってしまうため、水郡線そのものを廃止するわけにはいきません。

一方で、利便性が低下しているのも事実です。理由としては駅員がいない無人駅が多い事です。一日を通して有人駅なのは、全48駅中、なんと5駅だけなのです。

このような無人駅は、降車する駅の車内で清算する方法と、降車した駅で清算する駅と、駅によって清算する方法も異なります。時間帯によっては駅員がいる場合もあります。この場合は切符を券売機で購入することになります。無人駅の場合、夜間は券売機が使えないため、トラブルの対応などすぐにできず、利便性が低下しています。

実際に夜間に切符を買えないというのは不便で、地域の人でも夜間の購入ができないということをおそらく知らないため、知らずに行ってしまうという方もいます。

無人駅には列車の情報が公開されているパネルがあり、情報こそ入りますが、駅員による有人の対応にはかきません。

そこで、無人駅の利便性を向上させるために二つ提案します。

一つ目は、駅を清潔に保つことです。駅構内に空きカンや空きびんなどのごみは適切な場所に捨てたり、ごみが落ちていたら拾って捨てたりするなど、利用者である私たちが無人駅を清潔に保つことで、地域の方もより利用がしやすくなると思います。

二つ目は、利用者が利用方法を理解することです。困ったらすぐに駅員に対応を求

めようとしても、無人駅には駅員はいません。かけつけるには、別な駅からくる必要があります。私たち利用者が無人駅の利用方法を把握することで、駅員の負担軽減にもつながると考えます。

赤字路線に駅員を復活させることは難しいと思います。だからこそ、利用者である私たちが意識を変えることで、水郡線はいつまでも使える不滅の路線になると思います。

(講評)

滉さんは、水郡線の重要性について話してくれました。水郡線は、昭和9年12月に開通し、当時は旅客だけでなく、石川町の重要な資源であった鉱物を全国に発送して、石川地方の発展に大きな役割を果たしてきました。昭和39年5月には福島―石川―上野を結ぶ水郡線準急が開通し大変にぎわっていたそうです。現在は赤地路線となってしまいましたが、それでも、滉さんが思っている通り、学生はもとより一般の人にとって、とても大事な路線です。滉さんが考えた二つの提案は、水郡線を存続させるためにはとても大切なことだと私も思いました。滉さんのような考えを持った人が増えて利便性のある路線にしたいですね。永久不滅の路線になることを願っています。

『音楽の楽しさ』

石川小学校 6年 穂積 蒼來

みなさんは、音楽にどんな力があると思いますか。

私は、音楽を聴くと、わくわくして楽しい気持ちになったり、気持ちが落ち着いたり、感動したりします。また、辛い時や悲しい時、音楽を聴いて励まされることがよくあります。このように、音楽には素晴らしい力があると思います。私も音楽を通して、たくさんの人を幸せにしたいと思うようになりました。

私は、小さい頃から音楽が大好きで、小学校三年生の時に合奏部に入部しました。

テレビでバイオリンを演奏しているところを見て、「かっこいい。私もやってみたい。」と思ったことがきっかけです。そのことをお母さんに伝えると、とても喜んで応援してくれました。

初めの頃は、バイオリンを持っただけでもとても重くて、大変でした。思うように演奏することができず、落ち込む時もあったけど、上級生の人に教えてもらいながら、あきらめずに練習しました。少しずつ演奏できるようになり、初めてバイオリンが弾けた時は、「私にもできるんだな。」と自信を持つことができました。

今では、楽譜を見るだけで色々な曲を演奏することができるようになりました。合奏部に入部してから四年。今年は、パートリーダーとなり、練習の時には、自分のことだけでなく、下級生のサポートをしたり、友達と励ましあったりして、楽しく活動しています。下級生が演奏できるようになると、私も一緒にうれしくなります。

バイオリンの音色が重なると、どんな時も心が弾んで楽しい気持ちになり、音楽の素晴らしさを実感します。

今年の目標は、県大会で金賞を取ることです。そのために私が、一番心がけていることは、どんな時も全力で練習に取り組むことです。今まで、大会に出場しても思うように結果が出せない時もありました。それでも、みんなで満足のいく演奏ができた時は、とても嬉しい気持ちになります。合奏は、みんなの心をひとつにすることで、最高の演奏を届けることができると思います。私たちの演奏を聴いた人や、家の人から、「よかったよ。感動したよ。」と言われた時、音楽の素晴らしさを伝えることができたと感じます。

私は、これまでの合奏を通して、たくさんの人と関わってきました。音楽の楽しさを教えてくれる先生方、一緒に演奏してくれる仲間、支えてくれる家族。たくさんの方のおかげで、合奏を続けることができていると思います。

これからも感謝の気持ちを大切に、バイオリンを演奏することの喜びや楽しさを実感しながら、目標に向かって、日々練習に励んでいきたいです。そして、私たちの演奏を聴いてくれるたくさんの方に、音楽を通して夢や希望を与えていきたいです。

(講評)

蒼來さんは音楽の素晴らしさを発表してくれました。蒼來さんが「バイオリン」を始めたきっかけや、上達の様子が順序よく述べられており、発表する内容の組み立てもよかったと思います。最上級生、パートリーダーとして、下級生をサポートしたり、仲間と励ましあったり、とても充実した活動をしているように感じました。

蒼來さんが、音楽を愛する美しい心をこれからも持ち続け、素敵な大人になっていくことを願っています。また、目標である、県大会での金賞受賞に向けて頑張ってください。

『猫の世界』

野木沢小学校 6年 ^{みずの}水野 ^{ゆい}優結

みなさんは、野良猫と地域猫の違いを知っていますか。どちらも飼い主がいないという点は共通しています。そのうち、地域住民による認知や管理がされておらず、放浪している猫のことを野良猫といいます。一方、地域の人々によって認知され、不妊・去勢手術などを行ってもらい、地域の人から毎日ご飯をもらっている猫のことを地域猫といいます。

私が主張したいことは、「猫の生きやすい環境を作りましょう。」ということです。

事情があって捨てられてしまった猫たちも、楽しく暮らし、長生きしてほしいと願うからです。

猫は、一人で生きたほうが幸せだと思う人もいるでしょう。ですが、私はそうではないと思います。猫のじゅ命を見てみると、室内で飼われている猫は、平均で十五年。地域で管理されている猫は、七、八年。野良猫にいたっては二、三年です。じゅ命だけで比べても、野良猫は飼われている猫の五分の一しか生きられないことが分かります。理由は、野良猫はえさをもらえないため十分な栄養をとれなかったり、不衛生なものを食べておなかに虫が入って病気になったり、車にひかれてしまったりするからだと考えられます。そうゆう悲しい思いをする猫を少しでも減らせるよう、私たちは工夫しなければなりません。

例えば、野良猫の保護です。私の友人に元野良猫を飼っている人がいます。拾われたばかりの子猫は、あばら骨が見えるほどにやせ細っていました。私は今まで元気な猫しか見たことがなかったので、とても驚いて言葉が出なかったことを覚えています。

それから二年。子猫は、私が想像していたよりもはるかに立派に成長していました。毛はふわふわで、青い目は輝いていて、幸せそうに遊んでいました。友達のお母さんは、動物関係の仕事をしているので知識が豊富で、すでに元野良猫を二匹飼っていたので、たくさんの愛情をもらって大きくなったんだなと感じました。いい家族にめぐり合えたことに、私まで嬉しくなりました。

野良猫を保護し、里親を探す活動している保護ねこカフェもあります。店員さんから様々な話を聞いたときに印象に残ったのは、保護活動を続けていても、猫を捨てる

人が多く、野良猫はまだまだたくさんいるということです。そのお店では、不妊・去勢手術をした「さくら猫」を増やす活動を敷いてる団体と協力して、野良猫を減らす活動をしているそうです。また、地域の人も地域猫の活動に協力して、みんなで猫を育てているそうです。

私は今まで猫を捨てている人のことばかりを考えていたけれど、私と同じように動物を助けたいと思って活動している人たちがたくさんいることを知って、とてもうれしくなりました。このような活動があることを、もっと多くの人たちに知ってもらい、広がればいいなと思います。一番は、だれも猫を捨てない世界ですが、その世界を作る第一歩として、猫の生きやすい世界について考えていきませんか。

(講評)

優結さんは、飼い猫、野良猫、地域猫の寿命についてよく調べましたね。私も初めて知りました。最近、ペットショップで犬や猫に一目ぼれして衝動買いした結果、短い時間で飼うのを放棄してしまうケースも少なくないと聞きます。動物の命を預かるからには最後まで責任を持ってもらいたいものです。優結さんは、動物を助けたいと思って活動している、心の優しい方です。優結さんのような方がたくさん増えて、優結さんが願っている猫（他の動物も含めて）の生きやすい世界になるといいですね。そう願ってます。

『制服の選択と権利』

石川中学校 3年 乾 ^{いぬい} 蒼一郎 ^{そういちろう}

「中学校行きたくないね。」

小学校六年生の冬、教室の隅で二人の女子が話しているのを、僕は聞きました。

「どうして行きたくないの。」僕が二人に尋ねると、「だって、制服のスカート穿きたくないだもん。」と不満そうに答えました。

小学校の間は、制服がないので、自分の好きな服を着ることができます。でも中学校には制服があり、男子は学ラン、女子はセーラー服と決まっています。女子生徒のみんなが、スカートを穿きたいわけではありません。その話を、男友達にすると。「僕は、学ランの詰襟が苦手なんだ。この前の採寸の時、詰襟が原因で苦しく感じたよ。」

制服は、三年間毎日着るものなのに、嫌な思いをして、着なければいけないのは、とても辛いことだと思いました。

翌年、ぼくはある新聞記事を目にしました。それは、県内にある県立中学校で、スラックスが採用されたという記事でした。記事を読み進めてみると、その中学校では、生徒会総会で、制服改革の要望を受け、スラックスが採用されたと書いてありました。

制服のジェンダーフリー化を実現するだけでなく、自分らしく、中学校生活を送ることを目的に、生徒会が中心になって改革されたそうです。僕は、この新聞記事を手にも、母に相談しました。「そういうことなら、お母さんたちも協力するよ。プライバシーにかかわることであるけど、自分たちが声を上げることも必要じゃないかな。」と母は言いました。

その年僕は、生徒会役員に立候補しました。学校のみんなの声を、先生や大人たちに届けようと思ったからです。生徒会役員になった僕は、学校に設置されている「未来箱」に注目しました。未来箱には、生徒たちの意見や要望が、たくさん寄せられています。未来箱の中には「制服のスカートが穿きたくない。」「女子制服にスラックスを採用してほしい。」といった、制服に関する要望が寄せられていました。当時の生徒会長も学校に働きかけをしてくれました。でも、学校だけで決められることではなく、町や関係機関の協力が必要であり、すぐにスラックスが導入されることは難しいとわかりました。

翌年も僕は、生徒会役員に立候補しました。制服改革を諦めなくなかったからです。そして、生徒会一丸となって働きを続けたことにより、今年の六月から、スラックスが採用されることになりました。

今回の制服改革を通して感じたことがいくつかあります。制服があることで、石川中学校の生徒だという自覚にもなり、行事服としても活用できます。ですから、単に制服をなくせばいいという問題ではないと思います。また、ジェンダーに限った問題でもありません。今回のように、制服の選択制を導入することで制服にかかわる問題がすべて解消されるわけでもありません。しかし、生徒には制服を選ぶ権利があるのではないかと思うのです。制服を選択制にすることで、防寒・防犯対策にもなり、何より自分らしく学校生活を送れるということは、僕たちにとってとても重要なことです。今回のように、当事者が声を上げることも必要かもしれません。でも、プライバシーにかかわる問題や、ジェンダーについては、自分が当事者であると、人に知られる可能性もあると思いました。高校では制服の選択制が進んでいますが、中学校では、まだまだ導入されていないところがあります。ぼくたち当事者が声を上げることも大切ですが、それによって、傷ついたり、辛い思いをしたりする生徒もいるかもしれません。プライバシーに考慮しながら、当事者が声を上げるのを待つだけでなく、価値観の多様性を認め合える社会を作っていくべきだと思いますし、もっと理解が進む社会を目指していきたいです。

(講評)

蒼一郎さんは、新聞などから情報を吸収し、よく勉強されていると思いました。女子や友人から制服の問題を聞き、ジェンダーフリー（社会的・文化的に形成された性差別の克服を目指す考え。）の実現に向け、母親の後押しもあり、生徒会役員として中心になって活動してきたことはすごいことだなと感じました。学校だけでは決定が難しい問題を、生徒会が一丸となって働きかけたことによって、問題が解決したことは素晴らしいことです。蒼一郎さんの作品は内容の組み立ても大変良かったと思いました。

『 人権への主観 』

石川中学校 3年 さいとう 齋藤 ゆうき 優希

人権など人が考えた空虚な妄想である。

まず、人々の言う人権と法的に言う人権が大きく異なると私は思います。

法的に言う人権は、「人々が生存と自由を確保し、それぞれの幸福を追求する権利」とされています。

しかし、私たちの言う人権とは少し認識が違うのではないのでしょうか？

例えば、女性専用車両はどうでしょう。

女性専用車両は、「女性へのセクハラ防止等の配慮」という考えから作られています。

しかし、果たしてこの配慮というのは本当に人権の尊重と呼べるのでしょうか。

確かに、女性へのセクハラへの配慮が必要という意見もあります。しかし、男性側の視点はどうでしょう？ 男性がセクハラされるということ、また、痴漢と勘違いされ免罪に巻き込まれてしまうこともあります。これを防止しようという試みは、なぜ少ないのでしょうか。

私は、「人権」という言葉が自分の権利ばかりを主張するものと誤解されているためだと考えています。

例えば、皆さんは

「女性の人権が・・・」

と言って全てを人権人権と言い、自分のままにすすめようととる人を見たことがないのでしょうか。少し、オーバーな表現かもしれませんが、現に日本では、

「容姿の悪い男性が女性に告白するのは人権の侵害だ」

といい、それに賛同する人が多くいます。皆さんは、この事実をどう受け止めるのでしょうか。

私は、人権、人権という人を悪く言っているのではわけではないのです。ただ“自分のためだけ”に使っていないかということを目指したいのです。人権を自分のためだけに主張するのは、他者の人権侵害つながらる恐れもあります。それを認識して使って初めて法的に言う人権というのが生まれるのではないのでしょうか。

そしてこの作文のべたである「誹謗中傷」についても少し考えてほしいことがあります

ます。人権の一部である「言論の自由」。これに基づいて何を言ってもよいという意見と、他者を侵害する行為は人権の侵害だという意見。どちらが正しいでしょうか。

一般的に他者に何を言っても良いというわけではない、人権の侵害と考える人が多いでしょう。この物事の本質は、人権の解釈にあります。自分の人権ばかり優先するというのは他者の人権の侵害と考えなければいけません。

そもそも、人権の解釈というのは社会的に言えば不確定なものなのですから、結局、他者への思いやりに直結します。へたに人権が・・・というより「他者を尊重する」という思いのほうが重要だと思います。

これが私が「人権」という言葉は妄想かつ都合の良いただの道具だと考える理由です。

(講評)

「人権」・・・難しい言葉ですね。

優希さんは『「人権」という言葉は妄想かつ都合の良いただの道具』と、とらえています。このとらえかたは人それぞれだと私は思います。私は「人権」は人間が人間として生まれながらに持っている権利としてとらえていて、大事なことだと思っています。ただ、優希さんは、最終的には「他者への思いやり。」「他者を尊重する。」ということをお大事にしているという考えは素晴らしいと思います。このような考えをいつまでも大事にしてほしいと思います。

『無農薬・オーガニック野菜を食べよう！』

石川義塾中学校 3年 ^{ねもと}根本 あかり

皆さんは普段食べる食材にどれくらい農薬が使われているか意識していますか？私はしています。例えば、先週食べた野菜の45%は無農薬の野菜でした。これから、皆さんに、無農薬・オーガニック野菜についてお話ししていきたいと思います。

まず初めに、農作物に使われている農薬について、簡単に説明します。農薬には様々な種類があり、目的ごとに使い分けられています。農作物を害虫から守る殺虫剤、病気から守る殺菌剤、雑草から守る除草剤、以上の三つが、主要な農薬です。化学の力で作物を守る農薬には大きなメリットがありますが、同時に様々なデメリットもあります。まずは残留農薬による健康被害です。一般的な洗浄では薬剤成分を落としきれず、農薬が残ったままの作物が店頭に並んでしまうことがあります。このような作物を摂取すると、体質によっては健康への被害を及ぼす危険があるのです。特に、輸入された外国産の安い農作物は、収穫効率を重視しすぎて、過剰に農薬を散布されたものが少なくありません。これらは健康を害する危険があるだけでなく、味や匂いも変わってしまう場合があります。また、農薬による環境汚染の危険もあります。化学薬品は、基本的に環境の中に自然に発生するものは多くありません。そのため、土壌に合っていない薬品を使用したり、薬剤の成分が強すぎたりすると、環境を汚染し、生態系を破壊する恐れがあるのです。

農薬取締法という法律によって、適切な用途・量の農薬は使って良いとされています。この法律では、長年の動物実験の結果などからわかった「有害な影響を示さない量」の農薬の使用を許可しています。しかし、農林水産省のホームページの発表によると、令和4年度には農薬が原因で食中毒になった人が29人、亡くなった人が4人いました。その他にも、農薬の散布中に中毒になってしまった人が23人いました。たとえ法律でしっかりと基準が定められていたとしても、農薬への耐性には個人差があり、絶対安全とはいえません。また、事業者が使用法を間違えてしまうことや、基準を守らないことも考えられます。これらのことから、私はなるべく薬を使わない農法で作られた野菜をおすすめしたいのです。

無農薬野菜には、「薬害がない」以外にも様々な魅力があります。ここからは、安全性以外のメリットを紹介していきたいと思います。まず第一に、風味が豊かでおいしく、栄養価が高いことです。無農薬野菜は、化学薬品なしでも安全に育つよう工夫された土壌で、たっぷりと栄養を吸収します。また無理に成長を促進させず、野菜が大人になるまでゆっくりと育てられるため、野菜が本来持っているポテンシャルを最大限に発揮できるのです。私は先日、いくつかの新玉ねぎを食べ比べてみたのですが、

無農薬の新玉ねぎは普通のものに比べて、4倍は美味しいと感じました。第二に、生産者の顔が見えやすいことです。スーパーマーケットなどでも名前と顔写真付きで売られることが多く、生産者が見えることで安心して野菜を買うことができます。生産者を選んで買うことで、その生産者を応援することもできます。

ただ、やはり皆さんの中には「無農薬野菜には虫がつきやすい」と感じている人もいます。たしかに、農薬を使わなければ虫を完全に排除することはできません。しかし実際には、出荷時や店舗に並べられるとき、何重にも及ぶ厳格なチェックが行われるので、消費者が虫害に遭遇する可能性は限りなく低くなっています。

ここまで無農薬野菜の安全性について話してきましたが、それでも「農薬を使った方が安全だ」という人もいます。ここで紹介したいのが、オーガニック農法です。

オーガニック農法とは、化学的に合成された肥料や農薬を使用しないこと、また遺伝子組換え技術を利用しないこと、農業生産に由来する環境への負荷をできる限り減らした農法のことをいいます。この農法では、環境生物を利用して虫害を防いだり、土壌を汚染しない有機農薬を使用することで、安全な農作物を効率的に生産することができます。

普段何気なく食べている野菜も、安全性や農法を意識することで、一段階上のおいしさを味わうことができます。それだけでなく、長期的には健康効果も期待することができます。無農薬・オーガニックの野菜は手間ひまかけて育てられているため、普通に売られているものより高額なことが多いですが、それでも食べ続けるメリットがあると思います。私は今後も、できる限りこういった作物を選び続け、農家さんを応援していきたいと思っています。

(講評)

あかりさんには、生活三大要素の一つ「食」の中で無農薬野菜について発表してくれました。農薬使用による害について、細かく表されていて、驚きました。「無農薬、オーガニック野菜」についても、よく調べられていて、大変参考になり、良かったと思います。野菜だけでなく、「無農薬」を大切にすることは、環境保全にもつながります。海外では大量の食用牛を飼育するために膨大な穀物を必要とするため、大量の農薬を使用して広大な土地で穀物を栽培した結果、地下水が干上がり、砂漠化が進んでいるそうです。あかりさんの発表された「無農薬野菜」の重要性を大事にして、「食」を守っていきましょう。

『 持続可能な地域の実現 』

学校法人石川高等学校 3年 ^{ふじもと}藤元 ^{こう}昂

皆さんは「消滅可能性自治体」という言葉を知っていますか。2020年から2050年までの30年間で、出産を担う中心の世代となる20代から30代の「若年女性人口」が半数以下まで減少し、消滅する可能性がある一福島県では33もの自治体に「消滅可能性」があるとされ、ここ石川町も例外ではありません。しかし、私にとってその分析結果は受けとめ難いものです。なぜなら、インターアクト部に所属し「まちのリビングプロジェクト」にも参加してきた私には、ここ石川町が温かくかけがえのない場所だと感じられるからです。

福島県全体で考えても、若年人口減少は大きな問題です。若い世代の多くが、進学や就職で首都圏へ移ったまま戻らないと聞きました。都市部は交通の便がよく、地方に比べ雇用機会にも恵まれているからでしょう。しかし、人口が増えることの弊害もあります。過密化が進むことにより、居住地確保の問題や大気汚染、利便性の低下につながってしまうことです。また、地方の過疎化が深刻であれば、耕作地としての役割も失われてしまうでしょう。

私は、地域コミュニティの場として重要な役割を担う商店街や伝統文化を再興することが、問題解決につながると考えます。具体的な対策としては、他の地域にはない独自のイベントや行事の開催、WebやSNSなどを使用してのPR活動が挙げられます。若い世代にどれだけ関心を持ってもらえるかが重要であり、地域の「これまで」を支えてくださった世代と「これから」を創っていく私たち若い世代がどのように交わり、地域とどのように向き合っていくのか今まさに問われているのではないのでしょうか。

私が小学生の時、伝統文化に触れることができる行事がありました。職人の方が和紙を完成させる過程を見学させていただき、その鮮やかで繊細な手さばき、和紙の美しさに感銘を受け、今も心に残っています。子どもたちや若い世代が伝統文化に触れ、その魅力を目の当たりにし理解を深める経験は、後継者不足という問題解決の一助となるのではないかと思います。また、先ほど提案した他の地域にはない独自のイベントについても、自身の経験から感じたことがあります。「まちのリビングプロジェクト」活動の一環として行われた鈴木重謙屋敷のイルミネーション点灯式の運営に携わった

時のことです。点灯に伴いより多くの方に足を運んでいただけるよう一から企画を考
えるという経験は、想像していたよりはるかに難しいものでした。主な対象を子ども
たちとし、輪投げなどを楽しんでもらいながら、サンタクロースやトナカイに扮して
お菓子や温かい飲み物を振る舞うという、メンバー全員で意見を交わし合い完成させ
た企画は成功したと思います。子どもたちだけでなく、保護者の方々や地域の方々、
多くの方が足を運んでくれました。たくさんの笑顔や子どもたちが喜んでくれている
様子を見て、それまでの苦労が報われたように感じた達成感は忘れられません。

私は この経験を通して、改めて老若男女幅広い世代を対象とした活動の必要性を感じ
ました。地域の隠れた魅力を引き出し発信していくことで、地域の方はもちろん他
の地域の方々にも関心を持ってもらうきっかけにするのです。そのためには、まず私
たち若い世代が地域の歴史と現状を知り、理解しなければなりません。インターアク
ト部では、猪苗代湖の水草を取り除く水質保全活動を行いました。観光人口増加とい
う視点からも、私たちが暮らす福島県の活性化はできると考えます。また、子育て支
援に力を入れることで「消滅可能性自治体」から脱却した例もあるそうです。これか
ら 私たち若い世代は、進学など一時的に地域を離れることがあるかもしれません。し
かし私は、難しさを知っているからこそ、地域の「これまで」を、そして「これから」
をさまざまな視点から考え行動し続けていきたい、そう強く思っています。

(講評)

昂さんは、「持続可能な地域の実現」について発表してくれました。私も「消滅可
能性自治体」が石川町も該当していることは、新聞などで知りましたが、認めがたい
ものと思っています。他の小さな町村と違い、石川町には二つの高校があります。

昂さんをはじめ、学石、県石の生徒たちの多くの若者が、様々なプロジェクトを立
ち上げ、町の活性化のために活動してくれています。昂さんがいう通り、若者を中心
として、商店街や伝統文化を再興していくことが非常に重要なことだと思いました。

とても素晴らしい発表でした。

『 私にとって大切なこと 』

福島県立石川高等学校 3年 ひるた 蛭田 あきら 暁

突然ですが、皆さんに質問です。皆さんが大切にしていることは何ですか？どんな人にも、仮に言葉に出さなくても、それぞれの胸の中には日から大切にしていることがあると思います。今日は、私が日々の生活の中で大切にしていることについて紹介したいと思います。

私が大切にしていることの一つ目は「学ぶことに憶病にならない」ということです。

このことが大切だと思うようになったのは、小学校六年生の時に初めて挑戦したピアノがきっかけでした。

初心者の私にとって音階を理解することや、両手を使ってピアノを弾くことは非常に難易度が高く、私はとても苦労しました。そのため、当時の私はピアノを学ぶことに対し、大変ネガティブで、マイナスの感情ばかりが湧き出てくるといった状況でした。しまいには「新たに学ぶことはそんなに良い事ではない」とすら考えるようになってしまいました。結果的には、満足に弾きこなすこともできないまま、私はピアノとの距離を取るようになってしまいました。

そのような私でしたが、高校の芸術科目は音楽を選択しました。この時は「美術よりは音楽のほうが楽しそうだ」という程度にしか考えていませんでした。

そんな私に、まさかという事態が起こりました。それは高校二年生の時に前触れもなくやってきた音楽検定の受験でした。「音楽選択者は音楽検定を受けなければならない」という突然の告知に、私は呆然としてしまいました。もちろん検定試験の中には、ピアノの実技も含まれていました。両手で満足にピアノを弾くことができなかった私は「検定の合格は無理だな」と受験する前から悲観的になりました。しかし、そのような私の前に「希望通りの就職をするためには検定の合格が必要だ」とつぶやくもう一人の私が現れました。その声に背中を押された私は、それまでとは別人のようにピアノの練習に向き合うようになりました。

実技試験の練習中、私は先生から、「左手に力が入っているからもう少し指の力を抜いていいよ」と助言されました。くしくもこれは、ピアノを弾き始めたころからの私の課題でした。力の抜き方を意識した練習を重ねたことにより、私は音楽検定三級に

合格することができました。これ以降、私は、新しいことを学び始めることに対する抵抗感がより低減してきたように思います。

何かを学び始めるということは、何歳になってもちょっとした勇気が必要であり、学びを進めていく中で必ずと言っていいほど壁に当たるものだと私は思います。しかし、重要なことは「学ぶことを始めなければ、そこに成長はない」ということです。一人では立ち向かうことが難しい壁であっても、友人や家族、あるいはそれにた長けている人といった多くの人の力を借りれば、私はどんな壁でも飛び越えることが出来ると思います。

私が大切にしていることの二つ目は「自分の短所を知り、かつそれを生かしながらかつ長所を伸ばす」ということです

私は、自分の長所や短所を深く理解することのないまま、高校に入学しました。そのため、自分の長所や短所を書くことを求められても、「これは本当に私の長所だろうか」「これは本当に短所に入るだろうか」と、いつも思い悩んでしまいます。悩んだ私はある時友人に「私の長所ってどんなところだと思ってる？」と聞いてみました。その時は友人から自分の納得のいく答えを聞くことはできませんでした。その後もしばらく一人で考えてみましたが、長所らしい長所は思い浮かびませんでした。

そんなある日、いつもの通り学校で友人と話している中で、友人から「短所は裏を返せば長所になるよ」と言われました。私は最初「この人は何を言っているのだろう」と思いましたが、友人から詳しく説明を受けてようやく友人が言おうとした意味を理解することが出来ました。私はよく先生や友人から「物事を深く考えすぎではないか」「細かいことまで考えすぎだよ」と言われます。私はこれが自分の「短所」だと思っていました。しかし、「短所は裏を返せば長所になる」という友人の言葉のおかげで「このことこそ、私の長所なのではないか」と思えるようになりました。この時の友人との会話をきっかけとして、私は「短所を知り、かつ短所を活かす」ということを大切にするようになりました。

しかし、私の中には新たにある疑問が浮かびました。それは、「短所がない人は長所もないのか？」というものでした。私はこの疑問について、しばらくの間、まじめに向き合ってみました。その中で私は、「長所」と呼べるものは誰にでもあること、それに加えて、長所は自分を肯定するうえで当然必要だか、人が人として謙虚にあるため

には、短所も必要だ、ということに気づきました。それ以降、私は、自分の長所ばかりではなく、短所を知って、それを活かすことが出来ることが大切なのだと思うようになりました。

他人の前で自分の個性を出すということは、私にとってはとても難しい事のように感じられます。それは、人前で個性を出すことで自分自身が否定されてしまうことが怖いからです。しかし、自分自身を卑下したり、最初からネガティブな思考になってしまったりしては、チャンスを逃すことが多くなってしまいます。そのため私は、後ろを向きがちな自分の性格を理解した上で、それを活かすことのできる道をこれからも自分なりに探究していきたいと思っています。

私が今回お話しした「学ぶことに臆病にならないこと」と、「自分の短所を知り、それを活かすこと」を常に頭に置きながら、目の前に迫った進路選択を始め、大きな判断を求められる場面を乗り越えていきたいと思っています。そして、この二つの思いを糧に、将来は一人の社会人として、この石川郡という地域のために貢献していきたいと思っています。

(講評)

「学ぶことに臆病にならないこと」、とても大事なことだと思います。いろいろな習い事でも、うまくいかないと途中で辞めてしまう人も少なくありません。暁さんもそうだったようですが、音楽の検定試験で努力して克服したこと。「自分の短所を知り、それを活かすこと」についても、最初は気付かなかったのが、友人や先生との話の中で気付かされたことは、暁さんには高校生活の中で大きな収穫だったと思います。この二つのことを大切にして、将来石川地方のために貢献してくれることを期待しています。頑張ってください。

第40回（令和6年度）石川町少年の主張大会作品集

石川町青少年健全育成推進協議会

〒963-7852 石川町字関根 165 石川町教育委員会生涯学習課
電話 0247-26-2566 F A X 0247-26-4992

